

令和2年度(2020年度)

管理事業名	総合福祉会館事業			総合計画の体系	大綱 3 政策 3 施策 1	福祉・健康 地域での暮らしを支えるまちづくり 地域福祉の推進
主な歳出 予算科目	一般会計	(款) 3	民生費	(項) 1	社会福祉費	(目) 9 総合福祉会館費
部局名	福祉部	予算執行所属	総合福祉会館			
予算大事業名 一般事務事業 総合福祉会館管理事業	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名					
事業の目的と概要 福祉の増進を図るため、高齢者、障がい者、ひとり親家庭及び関連福祉団体等に対し、貸館等で活動の場を提供しています。						

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標の定義
貸室の延べ利用者数	人	73,610	70,074	26,379	総合福祉会館の会議室等の延べ利用者数
成果の説明	総合福祉会館は、高齢者及び障がい者福祉センターの機能を有し、それらを対象とした事業(市主催事業及び各種団体主催事業)を行っています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言の発出等により、貸館を一時中止していたこと及び貸館の一部をワクチン接種業務の部屋に転用したため利用者数が減少していますが、市民のニーズは高く、福祉の増進に寄与しています。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	-	-	-	-
経常収入				
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	1,180	1,157	981	△176
経常収入 小計(a)	1,180	1,157	981	△176
経常費用				
給与関係費	45,152	37,674	35,597	△2,077
物件費	66,478	64,652	65,542	890
維持補修費	13,472	1,929	3,840	1,911
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	28	28	28	-
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	46,598	47,990	48,184	194
費用				
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	3,527	2,899	2,432	△466
退職手当引当金繰入額	11,516	△5,945	△1,007	4,937
支払利息	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	186,770	149,227	154,616	5,389
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△185,590	△148,070	△153,635	△5,564
特別収入				
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
特別費用				
固定資産除売却損	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	-	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	-	-	-
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△185,590	△148,070	△153,635	△5,564
一般財源充当額	147,418	110,425	109,290	△1,134
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	△38,172	△37,646	△44,344	△6,699

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
給与関係費	令和2年10月より職員1人減による職員人件費の減(△2,077千円)
物件費	委託料 51,486千円(3,015千円) 光熱水費 11,054千円(△1,528千円) 消耗品費 1,121千円(△355千円)
維持補修費	修繕箇所の増によるもの(1,911千円)

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

区分	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	1,180	1,157	981	△176
行政サービス活動支出	131,182	110,361	110,271	△89
行政サービス活動収支差額	△130,002	△109,204	△109,290	△86
投資活動収入	-	-	-	-
投資活動支出	17,416	1,221	-	△1,221
投資活動収支差額	△17,416	△1,221	-	1,221
財務活動収入	-	-	-	-
財務活動支出	-	-	-	-
財務活動収支差額	-	-	-	-
収支差額 合計	△147,418	△110,425	△109,290	1,134
一般財源充当額	147,418	110,425	109,290	△1,134
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容	(行政サービス活動収入) 行政財産目的外使用に伴う光熱水費等981千円
----------	--

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
利用者1人あたりにかかるコスト	平成30年度	73,610人	2,537円	総合福祉会館の利用者1人あたり5,861円のコストがかかっています。
	令和元年度	70,074人	2,129円	
	令和2年度	26,379人	5,861円	
	平成30年度		円	
	令和元年度		円	
	令和2年度		円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	令和元年度末 A	令和2年度末 B	差額 B-A	勘定科目	令和元年度末 A	令和2年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	2,899	2,432	△466
未収金	-	-	-	地方債	-	-	-
流動資産	-	-	-	短期借入金	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	賞与引当金	2,899	2,432	△466
短期貸付金	-	-	-	未払金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	リース債務	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	その他流動負債	-	-	-
事業用資産	1,762,880	1,714,940	△47,940	固定負債	27,399	24,026	△3,373
有形固定資産	1,011,024	1,011,024	-	地方債	-	-	-
土地	-	-	-	長期借入金	-	-	-
建物・工作物	751,855	703,916	△47,940	退職手当引当金	27,399	24,026	△3,373
リース資産	-	-	-	リース債務	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	その他固定負債	-	-	-
無形固定資産	504	504	-	負債の部合計	30,298	26,458	△3,839
固定資産	-	-	-	純資産	1,734,266	1,689,921	△44,344
有形固定資産	-	-	-	重要物品	-	-	-
土地	-	-	-	図書館資料	-	-	-
建物・工作物	-	-	-	投資その他の資産	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	出資金	-	-	-
重要物品	1,180	936	△244	長期貸付金	-	-	-
図書館資料	-	-	-	基金	-	-	-
投資その他の資産	-	-	-	徴収不能引当金	-	-	-
出資金	-	-	-	その他債権	-	-	-
長期貸付金	-	-	-	資産の部合計	1,764,564	1,716,380	△48,184
基金	-	-	-	負債及び純資産の部合計	1,764,564	1,716,380	△48,184
徴収不能引当金	-	-	-				
その他債権	-	-	-				

Ⅲ 財務構造分析

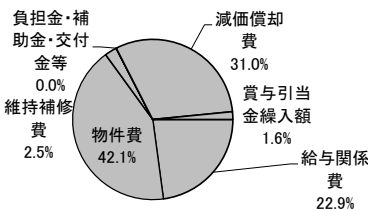
▽人にかかるコストの内訳

	常勤・再任用 月平均	会計年度任用等 年間従事延日数	特別職非常勤 年間従事延日数	合計(千円)
事業従事人数	4.05 人	459 日	0 日	37,022
給与関係費等	31,055 千円	5,967 千円	0 千円	
内、時間外勤務手当	417 千円			

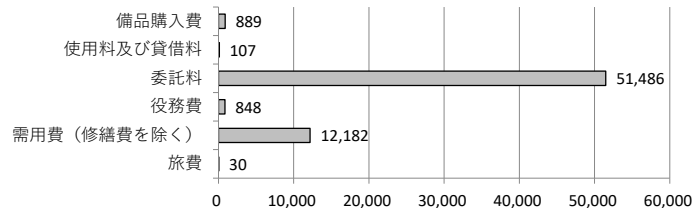
貸借対照表の主な増減理由(特微的な事項)

勘定科目	増減理由
建物・工作物	建物・工作物の減価償却による47,940千円の減
重要物品	点字プリンター及び周辺機器更新による1,221千円の増、減価償却により285千円の減

▽経常費用の構成割合



物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	総合福祉会館
取得年月日	昭和62年(1987年)4月1日
建物・工作物の取得価額	1,969,510 千円
建物・工作物の減価償却累計額	1,265,594 千円
利用料金収入	- 千円

▽分析指標

(単位:%)

分析指標	年度	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差 B-A
施設維持補修費比率		0.7	0.1	0.2	0.1
施設老朽化比率		59.4	61.8	64.3	2.5
受益者負担比率		-	-	-	-
徴収不能引当率		-	-	-	-
一般財源充当比率		99.2	99.0	99.1	0.1
経常費用対公共資産比率		9.5	7.6	7.9	0.3

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は57.2%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

経常費用の主なものは、給与関係費 35,597千円(22.9%)、物件費65,542千円(42.1%)、維持補修費3,840千円(2.5%)、減価償却費 48,184千円(31.0%)となっています。物件費の主な内訳としては、委託料(維持管理・点検委託料 8,740千円、保安・警備・清掃業務委託料42,247千円など)、需用費(光熱水費 11,054千円、消耗品費 1,121千円 など)となっています。
施設老朽化比率は64.3%で昨年と比較して老朽化が進行しています。施設維持補修費比率は0.2%となっています。
経常収入は、その他収入として、行政財産目的外使用に伴う光熱水費等が981千円となっています。費用の99.1%が税金などの一般財源でまかなわれている事業です。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

総合福祉会館事業については、貸室の利用者数が年々減少傾向にあるため、古くなった備品の更新やハード面において車いす利用者が使いやすいアウトにする等、市民にとって使い勝手の良い場にする工夫が今後必要となります。
また、開館から30年以上が経過しており、今後も施設を維持管理するためには、老朽化した箇所の優先順位を検討したうえで、維持補修や改修工事を計画的に行うことが必要となります。